

最終ランナー

山下雅人



やました・まさと 「短歌人」同人、現代歌人協会会員。月刊短歌誌『短歌四季』編集長。1955年生まれ。79年中央大学文学部卒。85年「現代短歌における“私”の変容」で第3回現代短歌評論賞受賞。歌集『水上の雅歌』、評論集『世紀末短歌読本』など。

にんにくのつめたき香り齧りたりドラキュラよりも淋しきわれは

改憲論に寄せて

ゆるやかな裏切り重ねて今がある ユダまでの距離を縮めてゆくか

八月の積乱雲や死者たちの無念祈念の膨らみゆけり

サル山に来たれば雄の猿ばかり叱られており喧嘩せぬゆえ

「人生は影が夢見る夢」なのか多摩キャンパスに恐竜の影

始祖鳥の翔ばざる空を仰ぎつつホモサピエンスの老いづく世紀

校庭は湖底となりて沈みゆく僕らの屍体は見つけられない

勝ちて還れ勝ちて還れのどよめきをしばし鎮めよ 最終ランナー

青春の階段のぼりつめたれど白門までを一気に走れ

こみあげてくるものありて緑なす疾風怒濤を駆け抜けよ 今